

メインフレームには 優れたコストメリットと システムの安定性および信頼性があります

ITコストの正確な認識

初期費用を重視してメインフレームから他プラットフォーム移行した結果、ライセンスや保守費用の負荷が逆に増大するケースがよく見られます。メインフレームで行っているミッションクリティカルな業務の機能を把握し、それらを代替する機能にかかるコストを正確に把握しなければ、ITコストの対比にはなりません。もう一度、ITコストを見直してみませんか？

移行へのリスク

お客様の中では、業務アプリケーションがCOBOLで記述されているために、ブラックボックス化されているケースや若い社員にCOBOLを勉強させることをためらっているケースも多くあります。

しかし、移行するとなれば、稼働中の業務アプリケーションの仕様は、解き明かす必要があります。メインフレーム上の業務アプリケーションは、大抵お客様ごとにカスタマイズが行われており、その記録が正確に文書化されていることは稀です。この状況でミッション・クリティカルな業務アプリケーションを移行するリスクとコストは、相当量となることが予想できます。十分にこの点を考慮しなければなりません。

海外では、これらのシステムを移行・廃止するのにかかる投資を正当化できるだけの利益は得られず、新しい世代にメインフレーム・エンジニアを育てる事例も増えてきています。

メインフレームは時代遅れか

メインフレームの技術は枯れた技術だといわれることがあります。しかし、枯れた技術であるからこそ、安定性・信頼性が高いことを示すことにならないでしょうか。現実にはシステムの安定性は、他のプラットフォームの比にはなりません。

また、メインフレームでも、新機能の追加・拡張は行われ続けてます。現在のメインフレームでは、従来の業務アプリケーション稼働させたまま、他のプラットフォームで実現できる機能を利用することができます。

同時に、メインフレーム上のアプリケーションとオープン系のアプリケーションとの連携シームレスに行える機能も十分に備えてます。新たな業務アプリケーションをVB.NETやC#・Java等のオープン系言語で開発し、既存の業務アプリケーションやの業務データと連携することも容易に行えます。つまり、最新の技術を利用して、既存の業務アプリケーションを改修していくことができるのです。

ミッション・クリティカル業務に 最適な堅牢性と安定稼働性

オープンへ移行した結果、常に外部からの侵入の脅威にさらされることになっていませんか。パーソナル・コンピュータから発展している現在のオープン系サーバーと最初から1台を複数人でアクセスすることを想定したメインフレームでは、設計思想が全く異なります。メインフレームのお客様で、外部からの侵入やウィルスに感染した事例の報告はありません。

また、ミッション・クリティカルな業務に使用するプラットフォームでは、安定稼働性は必要不可欠な要素です。しかし、オープン系サーバーでは、外部からの脅威のために定期的にセキュリティ対策を行わなければなりません。対象とする停止サーバーが複数台になれば、その運用コストも増大します。